

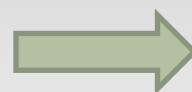
日本財団 New Day 基金事業 女川フューチャーセンター「Camass（カマス）」

【コンセプト】

少子高齢化が進み課題先進地と言われる女川町においては、被災前の状態に戻すのではなく、「地域活性にむけた新しいまちづくり」が求められる。その主体はあくまでも地域住民であるが、所属や年齢や性別に寄らず、誰もが集い、つながることのできる場所をつくることで、行政・民間・議会・住民・よそ者の連携を推進し、まちづくりを加速させる。「かます」は女川弁で「かき混ぜる」という意味。さらに英語のMassが持つ「大勢で」という意味を加え、未来思考の対話を通じて新たなアイデアや 課題解決の手段を見出し、実践していく。女川フューチャーセンターはそのシンボルとなり、活動の支援拠点となる。



嵩上げされた
町の中心部



駅前の顔となる
オープンな外観



【施設概要】

建設地：宮城県女川町女川浜字大原 7 5-7

※再開発が進む町の中心部、駅前プロムナードの入口にあたる場所に立地

※周辺は嵩上げ工事が続き、現時点での建物は3月21日再開の駅庁舎のみ

面積：建築面積：223.2m²

機能：

①コワーキングスペース：町内外の様々な職種の人が集い、出会いを生み出す場(37席)

②会議室：コワーキングスペース内に設置した仕切りのある会議室(8名×2室)

③多目的室：アイデア次第で使い方が広がる4つのスペース(7～14名×4室)

EX)高校生の意見から生まれた巨大こたつのある部屋など

運営主体団体：特定非営利活動法人アスヘノキボウ（代表理事：小松洋介氏）

事業費：事業費総額約6,000万円、日本財団New Day 基金拠出額：5,643万円



完成に向けた
工事が進む

